

|                  |   |
|------------------|---|
| Title            | 慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査に関する検討：入学時と履修後の比較   |
| Sub Title        | Comparative results of the freshman level questionnaire on physical education at Keio University  |
| Author           | 吉田, 泰将(Yoshida, Yasumasa)<br>高嶺, 隆二(Takamine, Ryuji)<br>綿田, 博人(Watada, Hirohito)<br>松田, 雅之(Matsuda, Masayuki)<br>石手, 靖(Ishide, Yasushi)<br>山内, 賢(Yamauchi, Ken)<br>加藤, 大仁(Kato, Hirohito)<br>村山, 光義(Murayama, Mitsuyoshi) |
| Publisher        | 慶應義塾大学体育研究所   |
| Publication year | 1992  |
| Jtitle           | 体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.32, No.1 (1992. 12) ,p.81- 94   |
| JaLC DOI         |   |
| Abstract         |   |
| Notes            |   |
| Genre            | Departmental Bulletin Paper   |
| URL              | <a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00320001-0081">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00320001-0081</a>         |

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 慶應義塾大学新入生の保健体育科目に 対する意識調査に関する検討

—入学時と履修後の比較—

|   |   |   |      |
|---|---|---|------|
| 吉 | 田 | 泰 | 将*   |
| 高 | 嶺 | 隆 | 二*** |
| 綿 | 田 | 博 | 人**  |
| 松 | 田 | 雅 | 之**  |
| 石 | 手 |   | 靖**  |
| 山 | 内 |   | 賢*   |
| 加 | 藤 | 大 | 仁*   |
| 村 | 山 | 光 | 義*   |

- I. はじめに
- II. 研究方法
- III. 結果と考察
- IV. まとめ

## I. はじめに

現在、平成3年7月から実施された「大学設置基準の一部を改正する省令」に対応して、全国の大学で保健体育科目をどのように展開していくか検討がなされ、その方針が決定される時期に来ている。本塾では、これまで保健体育科目4単位全てを第1学年時の必修として、実技：基本体育（通年実施で4種目）、選択体育（夏・冬季集中または通年実施のいずれか1種目）、理論：保健衛生、体育理論のそれぞれを1単位ずつ履修することとなっている。

そこで、この改革の時期に当たり保健体育科目に対する学生の意識の一端を認識するために、基本体育に焦点を当て、昨年度の新入生を対象に入学時と履修後の2回意識調査を実施し

---

\* 慶應義塾大学体育研究所助手  
\*\* 慶應義塾大学体育研究所専任講師  
\*\*\* 慶應義塾大学体育研究所助教授

た。

## Ⅱ. 研 究 方 法

### 1. 対 象

平成3年度慶應義塾大学新入生（文学部，経済学部，法学部，商学部，理工学部，医学部）

### 2. 時 期

第1回目：入学時 平成3年4月5日，8日 保健体育科目ガイダンス時

第2回目：履修後 平成4年1月17日～23日 最終授業終了時

### 3. 実施人数

第1回目：男子 3,987名 女子 1,273名 計 5,260名

第2回目：男子 2,711名 女子 1,090名 計 3,801名

### 4. 方 法

質問紙を作成し，5段階尺度の選択項目，自由記述項目を設け調査を実施した。具体的内容は文末の資料に示す通りである。なお，集計は男女合計で行った。

<質問項目> [( )内は履修後の調査で文章を変更した箇所。]

- 1) 基本体育は必修でよい。
- 2) 基本体育の目的は体力づくりだと思う。
- 3) 基本体育には積極的に出席しようと思う。(出席した。)
- 4) からだを一生懸命動かすことは楽しい。
- 5) 週に1回程度の体育実技では不十分だ。
- 6) 大学で体育実技を実施することには意義がある。
- 7) 体育実技以外でも運動しようと思う。(運動している。)
- 8) 自分で運動プログラムを立案できるように指導してほしい。(できるようになった。)
- 9) 大学では健康管理に気を付けようと思っている。
- 10) 健康管理で大切なことは自分で運動することだと思う。
- 11) 「生涯体育」ということばを知っている。
- 12) 「運動処方」ということばを知っている。
- 13) 基本体育において塾生は1年間に複数種目を経験することになっているが，限られた時間の中で，少数種目をこなし技術の習得等を目指した方がよいと思うか，多数種目をこ

回答の割合：入学時（4月）

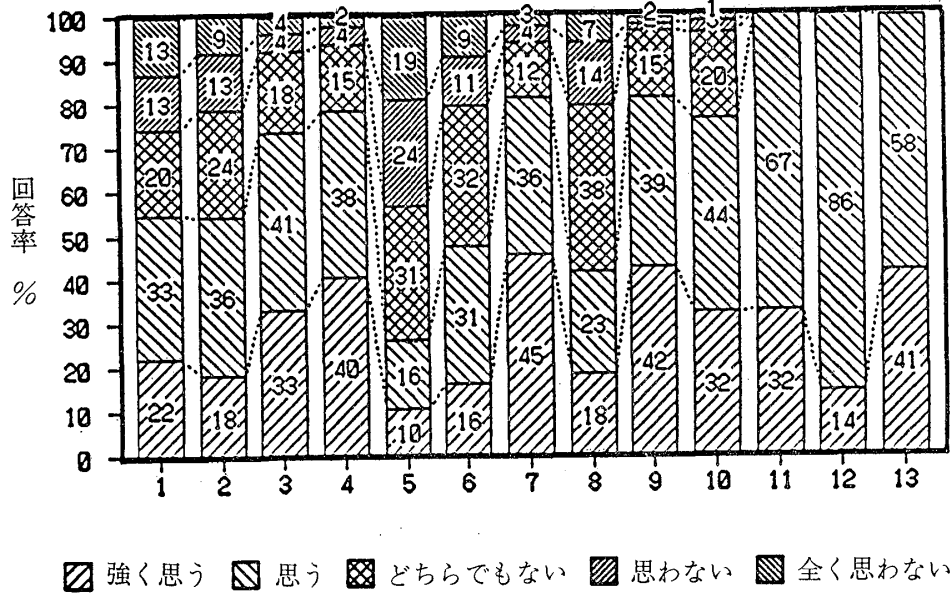


図1 各項目の回答の内訳（入学時：4月）

回答の割合：履修後（1月）

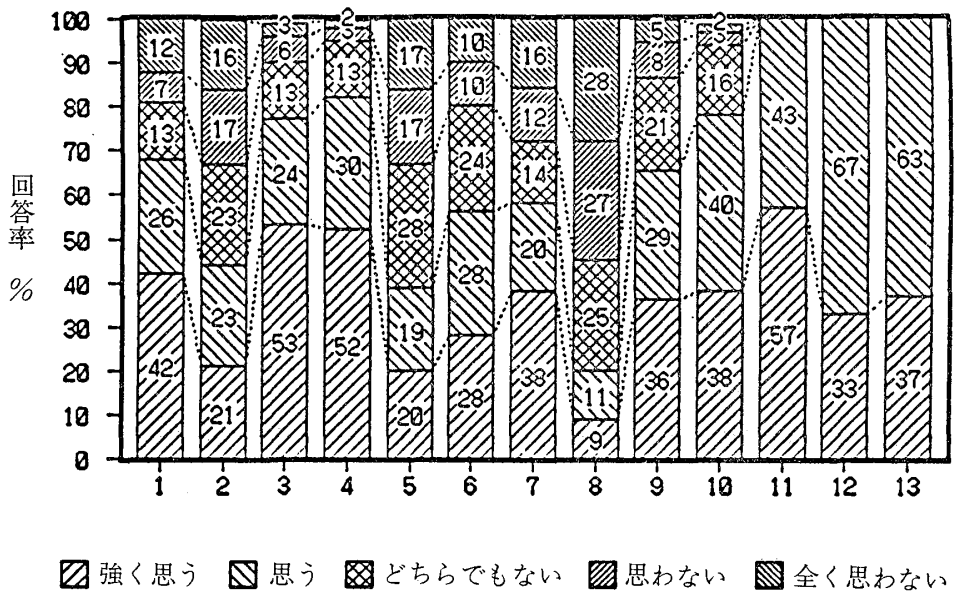


図2 各項目の回答の内訳（履修後：1月）

問1 必修でよい

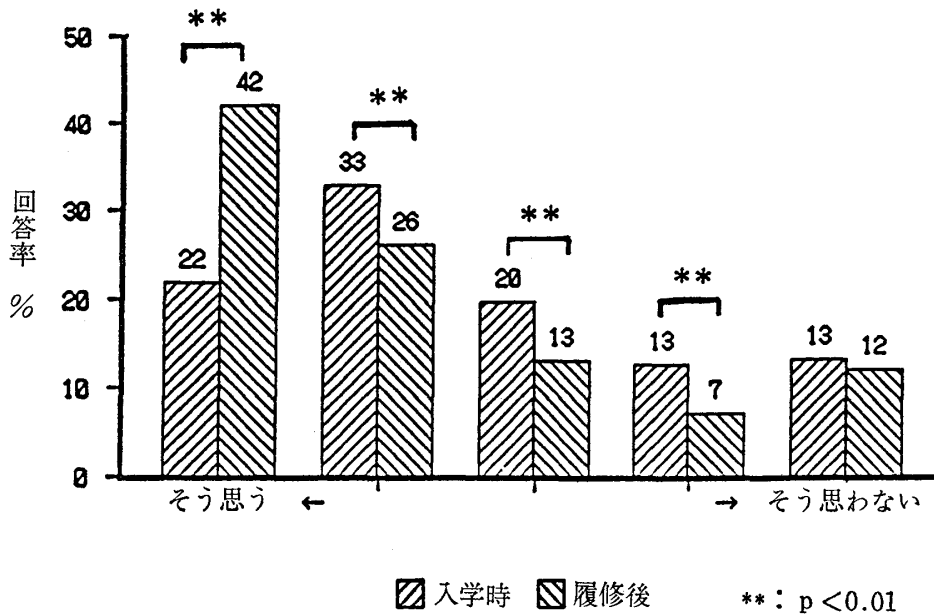


図3 問1の回答の内訳

なし、できるだけいろいろな種目を経験する方がよいと思うか。前者の場合は1を、後者の場合は2を○で囲んでください。

### Ⅲ. 結果と考察

1. 全体の傾向は図1・図2の入学時と履修後の各項目の回答の内訳に示したとおりであるが、多くの項目において「強くそう思う」と回答した割合が大きくなっている。

2. 質問項目別回答の内訳

1) 基本体育は必修でよい。

結果を図3に示したが、ここで大きな差が見られるのが「強くそう思う」で、入学時が22%であるのに対し、履修後は42%となっている。「そう思う」と合わせて肯定的意見の割合が大きくなっている。

2) 基本体育の目的は体力づくりだと思う。

結果を図4に示したが、入学時に「そう思う」と回答した割合が大きかったが、履修後に減少した部分が、「そう思わない」「全くそう思わない」へ置換した可能性も考えられる。体育の目的が多様化していることが原因のひとつと考えられる。

問6 大学での実技実施には意義がある

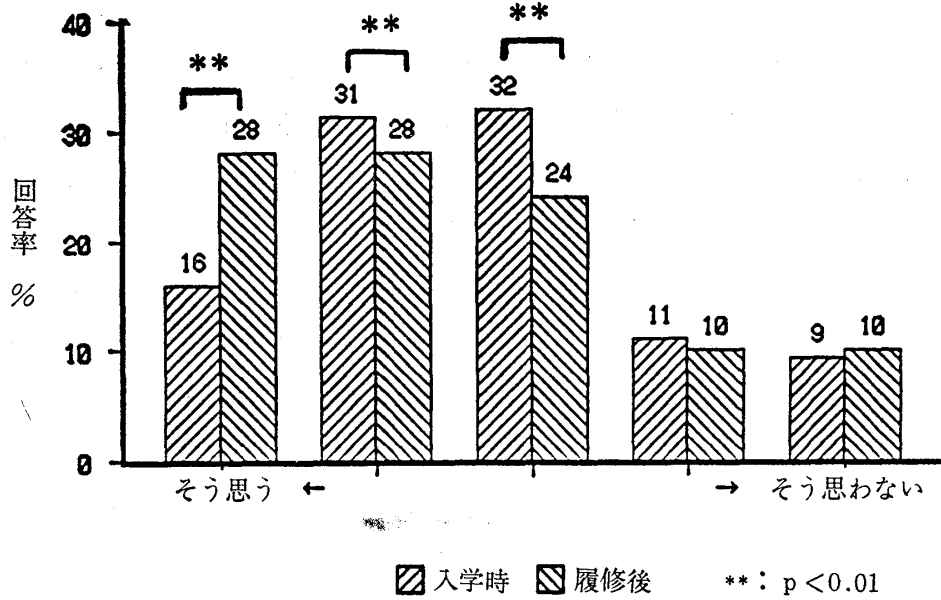


図8 問6の回答の内訳

問7 体育実技以外でも運動しようと思う

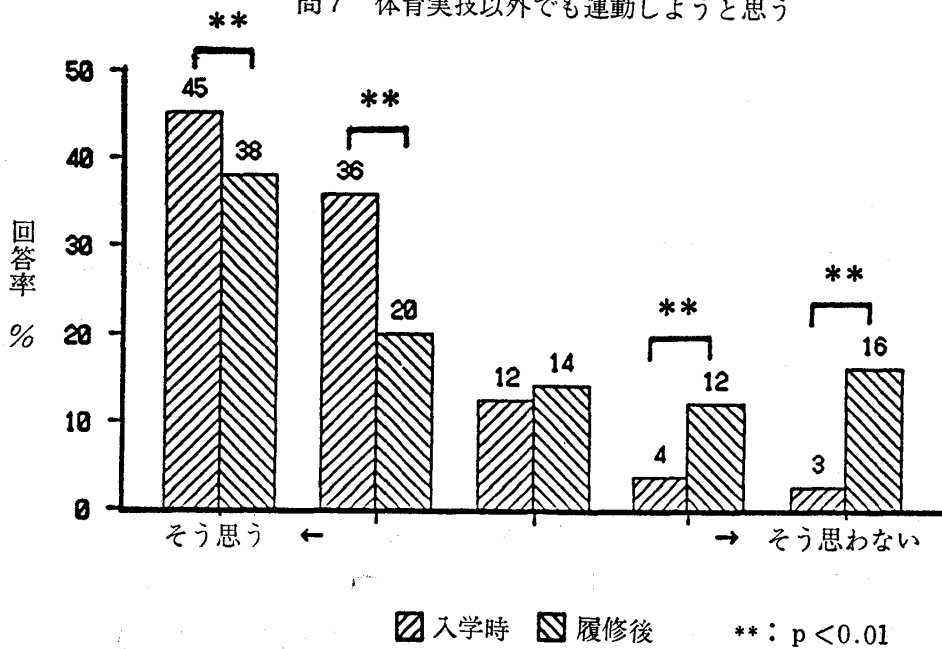


図9 問7の回答の内訳

3) 基本体育には積極的に出席しようと思う。(出席した。)

結果は図5の通りであるが、質問の文章が入学時と履修後で変更されている事を考慮して検討する必要がある。入学時は、これから授業に参加していく意欲を聞いているのに対して、履修後の場合どのように出席したかその結果を求めている。それを踏まえた上で考えると、入学時に「強くそう思う」「そう思う」と答えた、大学において体育実技に参加することに積極的であったものと、履修後に「強くそう思う」「そう思う」と答えた、結果的に積極的に参加したものがほぼ等しい割合で、その中で53%のものが「強くそう思う」と回答している点は評価できるものと考えられる。

4) からだを一生懸命動かすことは楽しい。

結果は図6に示したが、入学時・履修後ともに「強くそう思う」「そう思う」の肯定的回答が80%前後と大きな割合を占め、特に「強くそう思う」の増加は好ましい傾向である。

5) 週に1回程度の体育実技では不十分だ。

図7から考えると、週に1回程度の体育実技では物足りないと感じているものが若干増加しているが、全体的に見ると、十分・不十分が「どちらともいえない」を中心に同じような分かれ方を示している。しかし全体の中にはサークルなどで運動・スポーツを自主的に行っているものと実技以外何も行っていないものが存在していることを考慮しなければならない。

6) 大学で体育実技を実施することには意義がある。

図8によると、大学における体育実技が意義を持つと考えるものが50%を越えており、さらに履修後には「強くそう思う」と答えたものが増加している。また「全くそう思わない」と答えているものが10%程度いることも見のがしてはならない。体育実技以外で自主的にスポーツを楽しんでいるためにその意義を感じないのであれば結構なことだが、運動・スポーツそのものの持つ意義を考えないとすれば問題であろう。

7) 体育実技以外でも運動しようと思う。(運動している。)

図9の傾向を見ると、入学時には体育実技以外でも積極的に運動をしようと考えているものが多く見られるが、履修後には「強くそう思う」「そう思う」の割合が減少し、「そう思わない」「全くそう思わない」の割合が増加している。1年次に体育実技の単位を取得してしまうと、大学の施設で運動をする機会のない立場になってしまうのでこのような考えが生まれることも予想される。

8) 自分で運動プログラムを立案できるように指導してほしい。(できるようになった。)

図10では、授業内容に求めるものを具体的にして、運動プログラムの立案を挙げてみた

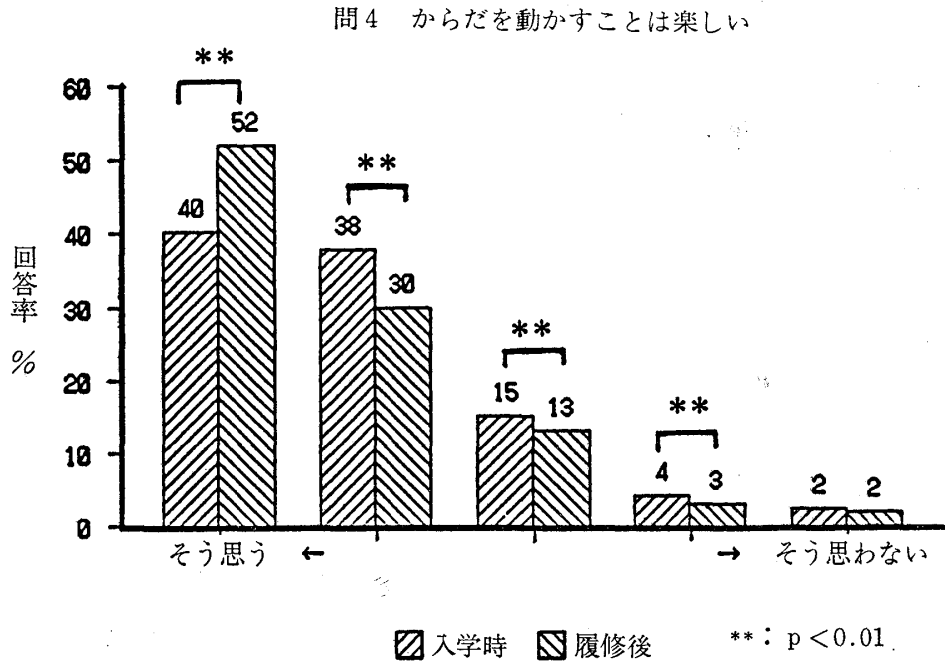


図6 問4の回答の内訳

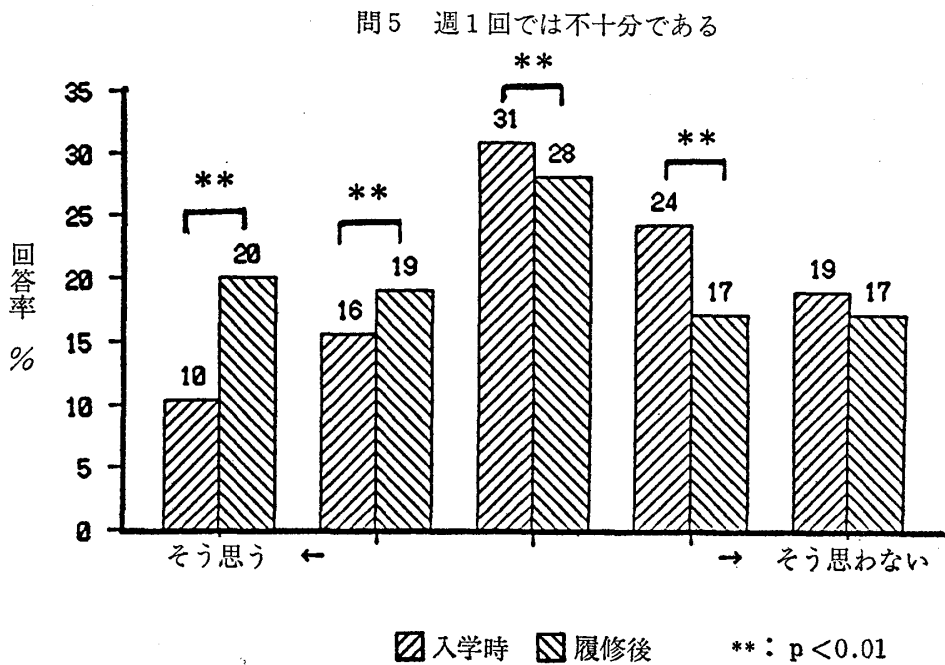


図7 問5の回答の内訳



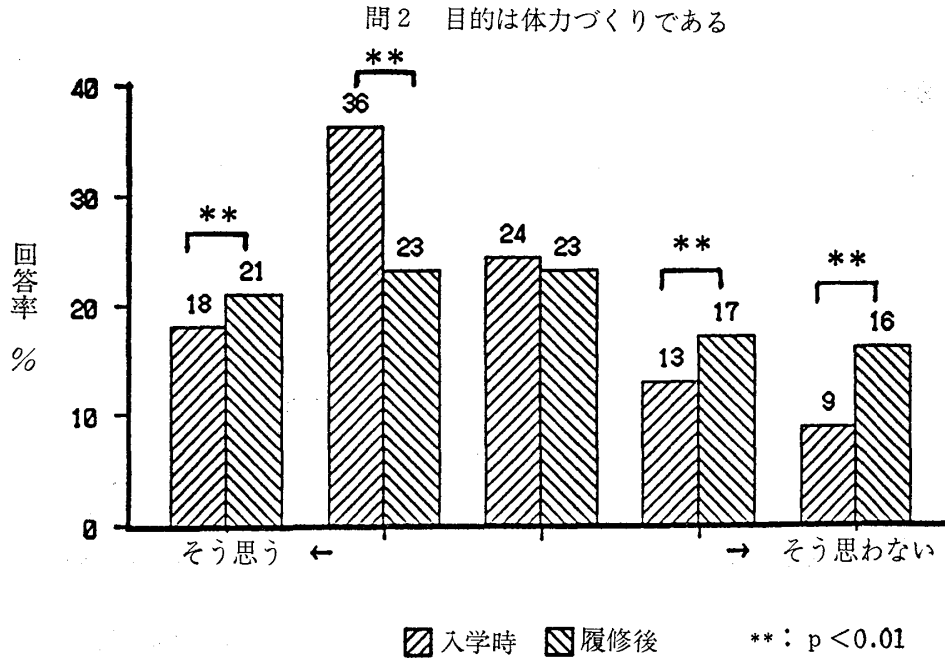


図4 問2の回答の内訳

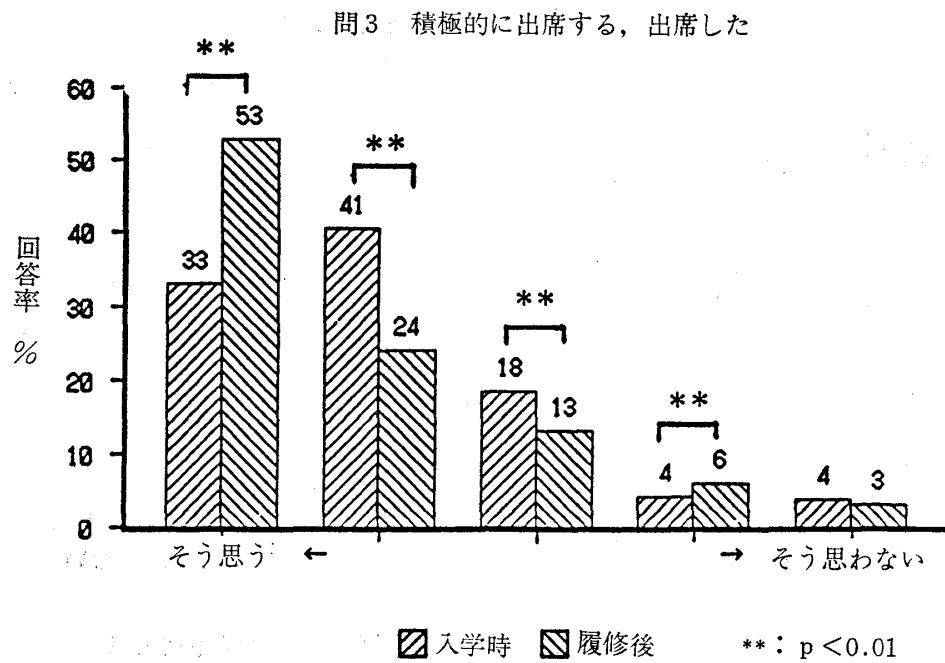


図5 問3の回答の内訳

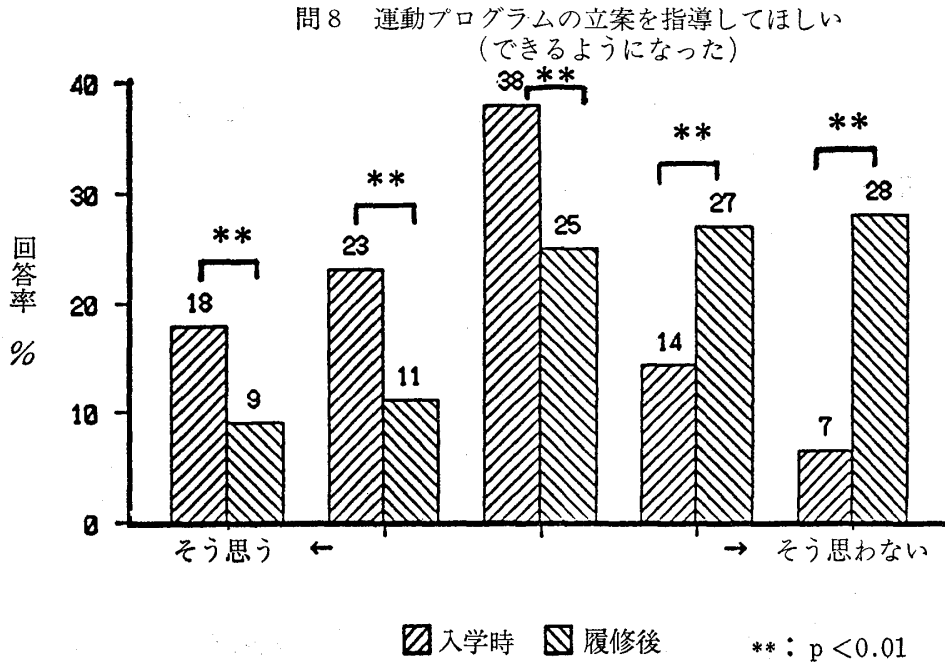


図10 問8の回答の内訳

が、入学時にはその希望を、履修後にはその結果を尋ねたこととなるが、基本体育の内容が4種目(水泳を含む)を約6週間ずつでローテーションしていくこととなっていたため、トレーニング法その他の理論的内容を取り扱うことが少ない傾向にある。そのため立案できるようになったものが少数にとどまったと考えられる。

9) 大学では健康管理に気を付けようと思っている。

図11に見られるように、健康管理に気をつけることに関して「強くそう思う」「そう思う」の割合が大きく、強い関心を持つものが多いことがわかる。しかし、履修後には「どちらともいえない」「そう思わない」「全く思わない」の割合が若干増加している点に問題を感じる。大学に入学して10カ月の時点でそう考えるものが存在している原因はどのようなところにあるのだろうか。

10) 健康管理で大切なことは自分で運動することだと思う。

図12に関しては、入学時・履修後に大きな変化は見られない。健康管理と運動の関係については、およそ正しい理解がなされているものと思われる。

11) 「生涯体育」ということばを知っている。

入学時知っていると感じたものは32%、履修後には67%に増加した。しかし、第1回目の調査で関心を持たなかったものが多いことも事実である。

12) 「運動処方」ということばを知っている。

入学時知っていると感じたものは14%、履修後には33%に増加した。しかし、第1回目

問9 健康管理に気をつけようと思っている

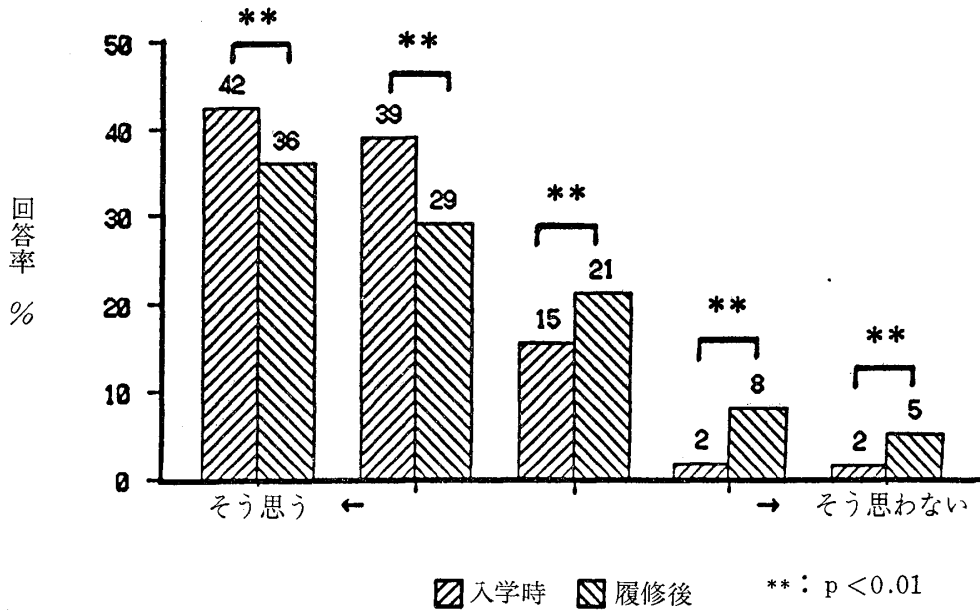


図11 問9の回答の内訳

問10 健康管理で大切な事は運動すること

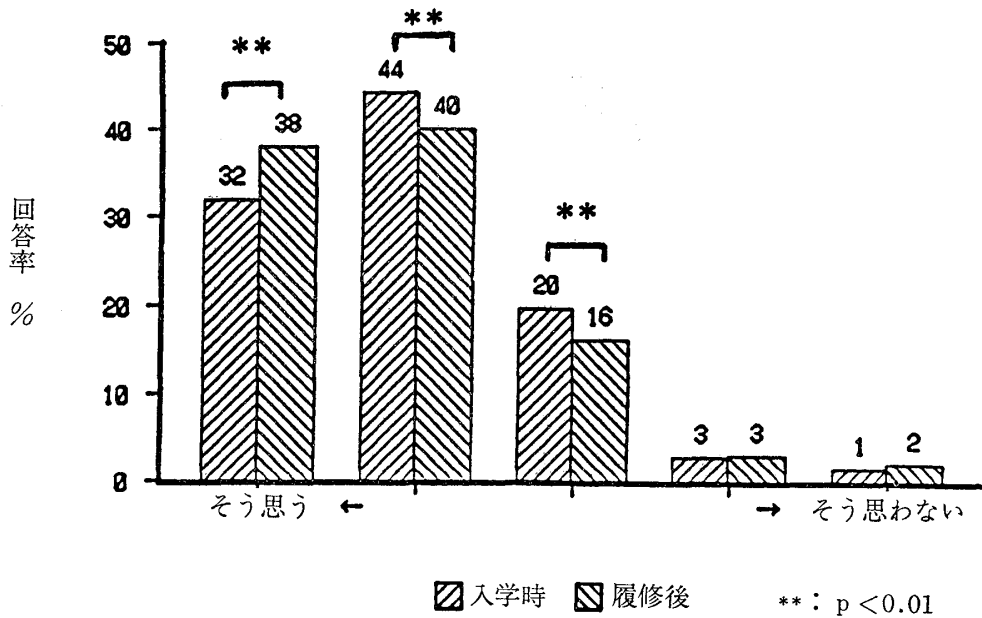


図12 問10の回答の内訳

慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査に関する検討

の調査と体力測定結果の配布時の解説などで耳にしているはずであるが意外である。

- 13) 基本体育において塾生は1年間に複数種目を経験することになっているが、限られた時間の中で、少数種目をこなし技術の習得等を目指した方がよいと思うか、多数種目をこなし、できるだけいろいろな種目を経験する方がよいと思うか。前者の場合は1を、後者の場合は2を○で囲んでください。

入学時・履修後ともに少数種目をよしとするものが40%前後で、多数種目の方が60%前後となっている。変化は見られない。

3. 自由記述の内容（履修後のみ設けた希望種目について）

表1 大学体育 学生希望種目

| 男 子 |           |       | 女 子 |            |     | 男 女 総 合 |          |       |
|-----|-----------|-------|-----|------------|-----|---------|----------|-------|
| 順位  | 種 目 名     | 回答数   | 順位  | 種 目 名      | 回答数 | 順位      | 種 目 名    | 回答数   |
| 1   | サ ッ カ ー   | 1,078 | 1   | テ ニ ス      | 464 | 1       | バレーボール   | 1,155 |
| 2   | 野 球・ソフ ト  | 981   | 2   | バレーボール     | 444 | 2       | サ ッ カ ー  | 1,130 |
| 3   | バレーボール    | 711   | 3   | バスケットボール   | 351 | 3       | 野 球・ソフ ト | 1,110 |
| 4   | バスケットボール  | 642   | 4   | バドミントン     | 213 | 4       | バスケットボール | 993   |
| 5   | テ ニ ス     | 503   | 5   | ダ ン ス      | 132 | 5       | テ ニ ス    | 967   |
| 6   | ラ グ ビ ー   | 349   | 6   | 野 球・ソフ ト   | 129 | 6       | 水 泳      | 374   |
| 7   | 水 泳       | 250   | 7   | 水 泳        | 124 | 7       | ラ グ ビ ー  | 353   |
| 8   | ゴ ル フ     | 182   | 8   | 陸 上 競 技    | 86  | 8       | バドミントン   | 330   |
| 9   | 卓 球       | 138   | 8   | エアロビクス     | 86  | 9       | ゴ ル フ    | 265   |
| 10  | ハンドボール    | 134   | 10  | ゴ ル フ      | 83  | 10      | 陸 上 競 技  | 210   |
| 11  | 陸 上 競 技   | 124   | 11  | 器 械 体 操    | 57  | 11      | 卓 球      | 192   |
| 12  | バドミントン    | 117   | 12  | 卓 球        | 54  | 12      | ハンドボール   | 162   |
| 13  | ア メ フ ト   | 115   | 13  | サ ッ カ ー    | 52  | 13      | ダ ン ス    | 160   |
| 14  | 柔 道       | 84    | 14  | 弓 道        | 39  | 14      | ア メ フ ト  | 116   |
| 15  | 空 手       | 80    | 15  | 合 気 道      | 32  | 15      | 柔 道      | 102   |
| 16  | マラソン・駅伝   | 71    | 16  | 剣 道        | 29  | 16      | 器 械 体 操  | 90    |
| 16  | 相 撲       | 71    | 17  | ハンドボール     | 28  | 16      | 弓 道      | 90    |
| 18  | トレーニング    | 59    | 18  | 体 操        | 27  | 18      | 空 手      | 89    |
| 19  | 弓 道       | 51    | 19  | ラ ク ロ ス    | 20  | 19      | 剣 道      | 76    |
| 20  | 剣 道       | 47    | 20  | 柔 道        | 18  | 20      | トレーニング   | 71    |
| 21  | カバディ      | 46    | 21  | アーチェリー     | 17  | 20      | マ ラ ソ ン  | 71    |
| 22  | ホ ッ ケ ー   | 45    | 22  | ドッジボール     | 14  | 20      | 相 撲      | 71    |
| 23  | ボクシング     | 44    | 23  | 新 体 操      | 13  | 23      | ラ ク ロ ス  | 55    |
| 24  | セパタクロー    | 39    | 24  | トレーニング     | 12  | 24      | ホ ッ ケ ー  | 50    |
| 25  | ラ ク ロ ス   | 35    | 25  | な わ と び    | 11  | 25      | 体 操      | 47    |
| 26  | 合 気 道     | 34    | 26  | ヨ ガ        | 10  |         |          |       |
| 27  | 器 械 体 操   | 33    |     |            |     |         |          |       |
| 28  | 馬 術       | 30    |     |            |     |         |          |       |
| 29  | ダ ン ス     | 28    |     | 回 答 数      |     |         | 上 位 25 位 |       |
| 29  | ボ ー リ ン グ | 28    |     | 男 子 20 以 上 |     |         | ま だ      |       |
| 31  | ドッジボール    | 27    |     | 女 子 10 以 上 |     |         |          |       |
| 32  | レスリング     | 24    |     |            |     |         |          |       |
| 33  | 体 操       | 20    |     |            |     |         |          |       |

#### 慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査に関する検討

表1が希望種目の結果である。これは、希望する種目を最高3種目まで自由に記入させたものである。その特徴をまとめると、以下のようになる。

- ①上位を球技種目が占めている。
- ②水泳（総合）・ダンス（女子）が比較的上位に入っている。
- ③中位層に武道関係が含まれている。
- ④外来のニュースポーツが多く見られる。（新しくオリンピック種目となったものなど）

#### Ⅳ. ま と め

今回は、これまで30年間行ってきた慶應義塾大学の基本体育に関する学生の意識の一端を理解することを目的に調査を実施した。その中で入学時の意識と1年間履修した後の意識を比較することにより大学生生活・授業が体育実技に関する意識に何らかの変化を与えているものか、さらに現在の学生がどのような体育のイメージを持ち、どのような種目を希望しているのか理解しようとするものであった。今回明かとなった点をまとめてみると、以下のようになる。

1. 必修科目としての必要性については、肯定的な者が13%増加した。また、強く肯定する者が倍増した。
2. 授業へ積極的に出席したと答えた者が全体の80%であった。
3. 運動をすることが楽しいと強く感じる者が増加した。
4. 週に1回の体育実技の授業頻度では不十分だと感じている者が増加し全体の40%となった。
5. 大学で体育実技を実施することには意義があると考えている者が増加し、「強く思う」と答えた者が倍増した。
6. 学生が大学体育実技で希望する種目は、バレーボール、サッカー、野球・ソフトボールなどの球技がその上位をしめている。また、武道種目や外来のニュースポーツなどを希望している者も多い。
7. 水泳を希望する者が全体で6位、男女ともに7位に位置していることから人気種目と考えられる。

以上のことから、これまで行われてきた慶應義塾大学の体育実技・基本体育が学生にどのように捉えられてきたのかその一端を知ることができた。そこで、これから考えなくてはならないのは、大学において学生がより多くの運動やスポーツに親しみ、その欲求を満たせる機会を

慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査に関する検討

資料 1月に実施したアンケート用紙

**基本体育（実技）に関するアンケート**

慶應義塾大学体育研究所

このアンケートは、慶應義塾大学の体育実技をよりよくしていくための基礎資料を得るために、皆さんの体育に対する意識、要望などを調査するものです。自分のありのままを回答してください。

質問内容に対する回答は、質問1～10までは、1:強くそう思う、2:そう思う、3:どちらとも言えない、4:あまりそう思わない、5:全くそう思わない、の5段階の中から自分の気持ちに最も近いものを選び、番号を○で囲んでください。また、質問11～12は、1:はい、2:いいえ、のどちらかの番号を○で囲みます。質問13、14は文章をよく読み、その指示に従ってください。質問15については、自分の気持ちを正直に記入してください。

なお回答内容が成績に影響を及ぼすことはありません。よろしくご協力お願い致します。

学部 1:文 2:経 3:法 4:政 5:商 6:理工 7:医 (番号を○で囲む)  
 そう思う ← ----- → そう思わない

- |   |   |   |   |   |   |
|---|---|---|---|---|---|
| 1) 基本体育は必修でよい。  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 2) 基本体育の目的は体力づくりだと思う。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 3) 基本体育には積極的に出席した。  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 4) からだを一生懸命動かすことは楽しい。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 5) 週に1回程度の体育実技では不十分だ。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 6) 大学で体育実技を実施することには意義がある。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 7) 体育実技以外でも運動をしている。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 8) 自分で運動プログラムを立案できるようになった。  | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 9) 大学では健康管理に気を付けようと思っている。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 10) 健康管理で大切なことは自分で運動することだと思う。   | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| 11) 「生涯体育」ということばを知っている。   | 1 | 2 |   |   |   |
| 12) 「運動処方」ということばを知っている。   | 1 | 2 |   |   |   |
| 13) 基本体育において塾生は1年間に複数種目を経験することになっているが、限られた時間の中で、少数種目をこなし技術の習得などを目指したほうがよいと思うか、多数種目をこなし、できるだけいろいろな種目を経験するほうがよいと思うか。前者の場合は1を、後者の場合は2を○で囲んでください。 | 1 | 2 |   |   |   |
| 14) どのような種目を大学の体育で希望しますか。3種目まであげてください。<br>( ) ( ) ( ) ( )   |   |   |   |   |   |
| 15) 基本体育に望むことがあれば自由に記入してください。   |   |   |   |   |   |

#### 慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査に関する検討

作り出していく必要があるということである。それは、これまでの第1学年のみの体育実技実施にとらわれることなく、学生が希望すれば2～4学年においても自由に履修ができ、専門的な指導を受けられ、現在ある体育施設を有効に利用していくような形で今後は考えていくべきであろう。開講する種目に関してもより柔軟に学生の希望を取り入れていく方向で考え、アトラクティブな授業が展開できるよう努力していく必要があるだろう。それにより学生が卒業後も自分自身の身体、体力、健康について正しい知識と理解を持ち、生活設計の中に運動・スポーツを積極的に取り入れていく基盤を作りあげることには寄与できれば何よりである。

#### 参考文献

- (1) 近藤明彦, 松田雅之, 石手靖, 佐々木玲子: 本塾入学者の体力測定結果の分析(その2)一測定結果に影響を及ぼす要因の検討一, 体育研究所紀要, Vol. 30, No. 1, pp. 1-10, 慶應義塾大学体育研究所, 1990。
- (2) 加藤橘夫: 体力科学からみた健康問題, 杏林書院, 1975。
- (3) 松田雅之, 石手靖, 近藤明彦, 佐々木玲子: 本塾入学者の体力測定結果の出身(塾内・塾外)年齢・運動経験による違いと1年後の変化一昭和61・62・63年度入学生の体力測定結果から一, 体育研究所紀要, Vol. 29, No. 1, pp. 13-29, 慶應義塾大学体育研究所, 1989。
- (4) 高嶺隆二: 慶應義塾大学新入生の保健体育科目に対する意識調査, 日本体育学会第42回大会発表抄録, p. 879, 日本体育学会第42回大会組織委員会, 1991。